

わかりやすい訓練とは

医療法人社団日本鋼管福山病院 リハビリテーション科

かんお まさとし
神尾昌利

《サークル紹介》

日本鋼管福山病院は、昭和46年5月、日本鋼管株式会社福山製鉄所と関係会社の従業員とその家族の診療と健康管理をおこなうために設立されました。現在では、広島県東部地域の中核病院として、福山市を中心に広く利用されています。

今年4月、日本鋼管福山病院は、医療法人による運営のもと、新たに開業いたしました。

サークルメンバー6名全員、患者さまへの「良質な医療の提供」「より良いサービス」を通じ病院として地域社会へ貢献できるよう、一丸となりQCサークル活動に取り組んでいます。

《テーマの選定》

No	問題、課題	必要性					サークルの実力		
		効果	緊急性	困り具合	将来の見込み	上司方針	全員参加	活動期間	合計
		◎5点 ○3点 △1点							
1	退院時指導の徹底	○	○	◎	○	△	○	△	19
2	カルテ管理	○	○	△	△	○	○	○	14
3	病棟訓練の充実	◎	○	○	◎	◎	○	○	27
4	外来受付方法の改善	○	△	△	○	△	○	○	15
5	訓練室スペース効率アップ	△	△	○	○	△	○	○	15

《アンケート》

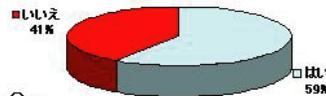
平成14年1月9日～16日

(調査数32人)

①リハビリ訓練室だけでなく病室の方でもリハビリされていますか？

はい 19人
いいえ 13人

59%



②リハビリの方法は十分理解されていますか？

はい 24人
いいえ 8人

75%



③リハビリの目的は十分理解されていますか？

はい 21人
いいえ 11人

66%



④病室でのリハビリの必要性を感じますか？

はい 29人
いいえ 3人

91%



病室でもリハビリを行っている人は対象者の59%。

リハビリの「方法」「目的」を十分理解していると答えた人は、それぞれ75%、66%。

病室でのリハビリの必要性を感じていると答えた人は、91%。

必要性を多くの人を感じているにもかかわらず、「目的、方法を十分理解できない」「もしくはその他、何らかの理由で」病室で自主訓練をしない人が多く、「実施率は59%」と、低い割合だった。

サークル チーム名		Fracture		(1986 年 4 月 結 成)	
リーダー氏名 (職種)	森本 哲 史 (理学療法士)	所属 部門	看護 管理 医療技術 事務	月あたり会合回数	4 回
リーダー経験年数	1 年 0 ヶ月		その他()	平均会合時間	60 分
メンバーの数	計 6 名 うち男 3 名 うち女 3 名	活動 内容	質 能率 CS モラル	平均会合出席率	85 %
			コスト 安全	テーマ歴 (このテーマで)	7 件目

《ギャップシート》

項目	現状レベル	要求レベル	ギャップ	攻め所の候補
テーマの特性	病棟でのリハビリ内容が不十分	病棟訓練の方法・目的の理解徹底	具体的なメニューが提示されていない	
患者様	訓練の方法・目的を理解されていない人がある	すべての患者様に訓練目的・方法を理解してもらう	口頭説明だけの理解は困難	具体的な方法 目的の提示
スタッフ	何度も同じ説明をすることがある 病棟訓練の具体的説明が不十分	一度で理解できる説明方法 短時間でより正確な説明	説明に時間がかかる 説明が重複する	説明方法の検討
看護師	訓練進行状況を把握していない 重要性(目的、方法)を理解していない	患者様の訓練内容を理解してもらいその準備の手助けをしてもらう	時間に余裕がない リハビリからの情報がない	看護婦への申し送りの検討
物	充足していない 砂のう 1キロ--4個 2キロ--8個 3キロ--3個 フレーム---10人程度 段ボール---全員分 CPM-----2台 セラバンド--2本 歩行器---5台(東2) 2台(西4) 2台(西3)	必要な患者様に100%用意できる	100%-現状	訓練道具の補充
環境	ベッド周りの運動スペースが狭い	運動できるスペースを確保する	邪魔なものがある	整理整頓

《目標の設定》

入院患者様のうち自主訓練可能な人の

病棟訓練の実施率と

方法の理解を

5月末までに

100%にする

《最適策の追求》

具体的な方法

目的の提示



訓練内容に応じた様々なパターンを作り、本人、家族にも分かりやすいように、絵、回数、時間を入れた個人的な訓練説明書を作る

説明方法の検討



早急に説明書を作成し説明書を見ながら訓練室で説明及び実施

看護師への申し送りの検討



ナースが机の上に置かれている説明書を見ながら必要物品を揃えてもらう

訓練道具の補充



必要数を病棟に確保してもらい、不足があればセラバンドで代用する

整理整頓



省スペースで可能な訓練メニュー、道具を考える

《訓練説明書》

北川 圭子 様用 リハビリプログラム

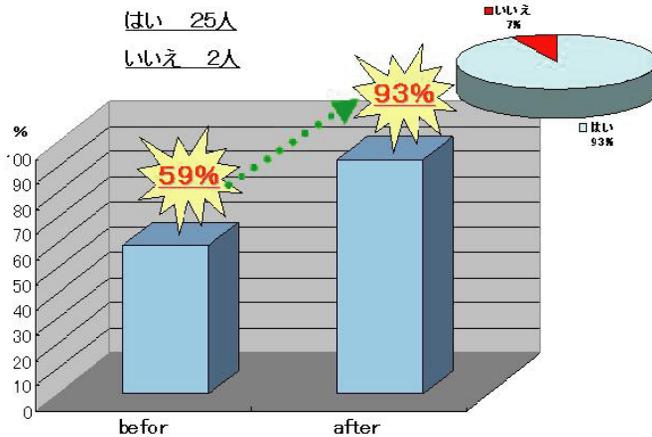
<p>三角パター</p> <p>目的 起き上がりに関与する筋力、筋力を強化します。</p> <p>方法 おおむけに寝た上体から、三角パターを引っ張って上体を持ち上げる。</p>	<p>ウォール・スライディング</p> <p>目的 膝を曲げる。関節角度改善を目的とします。</p> <p>方法 壁に背づき壁に足を立てかけた状態から、お尻を壁を滑らしながら下ろしていき膝を曲げていきます。必要に応じておもりをつけます。</p>
<p>ヒップアダクション</p> <p>目的 股関節の外部の筋力を強化します。歩行時の姿勢の安定性を向上します。</p> <p>方法 おおむけに寝て、つま先は上を向いたまま足を外に開いてゴムを矢印の方向に引っ張る。</p>	<p>ボール踏み</p> <p>目的 股関節の内側の筋力を強化します。歩行の安定性を向上します。</p> <p>方法 膝を立てた状態で、ボールを膝にはさみ、うちももに力を入れてボールをつまみます。</p>
<p>ボールでレッグカール</p> <p>目的 太ももの後面の筋力を強化します。</p> <p>方法 座った状態で、膝を曲げてボールをかかとで押しつぶす。</p>	<p>足首の背屈</p> <p>目的 足首を持ち上げる筋力を強化します。足趾の痛み、たるみ、転倒の防止を目的とします。</p> <p>方法 つま先を上にとらえて、ゴムを矢印の方向に引っ張る。</p>
<p>レッグプレス</p> <p>目的 下肢でふんばる力を作ります。</p> <p>方法 膝を曲げた状態から、足の裏でゴムを踏みこんで膝を伸ばす。</p>	<p>ダンボール踏み</p> <p>目的 下肢でふんばる力を作り歩行時に働かせます。</p> <p>方法 膝を伸ばして足の裏でダンボールを押しつぶす。</p>

日本鋼管福山病院 リハビリテーション科 ①は、ダンボール 必要物品 必要物品は看護師さんに申し出て下さい。

《効果の確認》

病棟訓練実施率

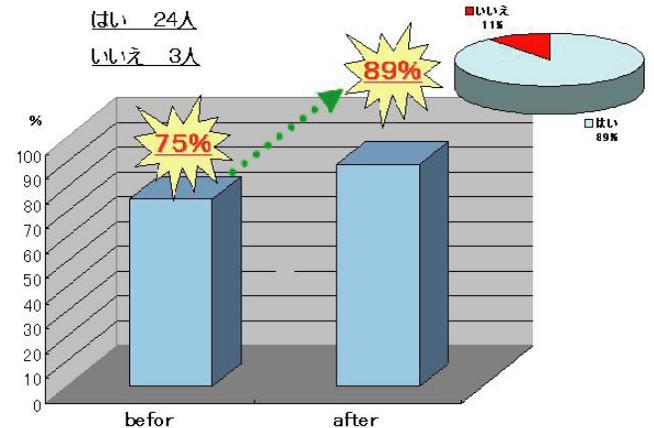
①リハビリ訓練室だけでなく病室でもリハビリされていますか？



《効果の確認》

患者様理解度

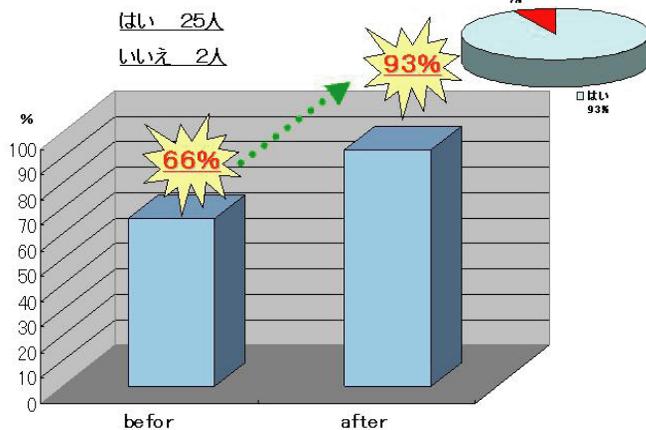
②リハビリの方法は十分理解されていますか？



《効果の確認》

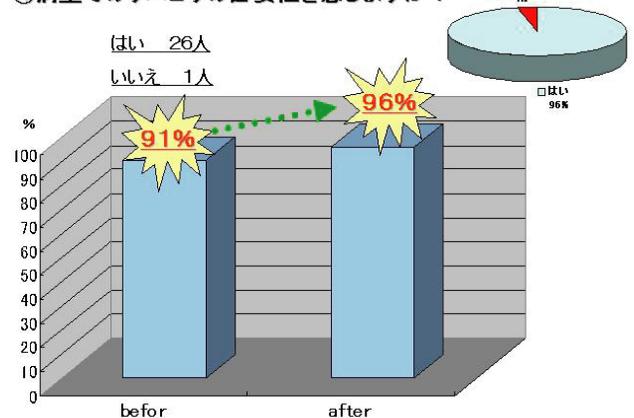
患者様理解度

③リハビリの目的は十分理解されていますか？



《効果の確認》

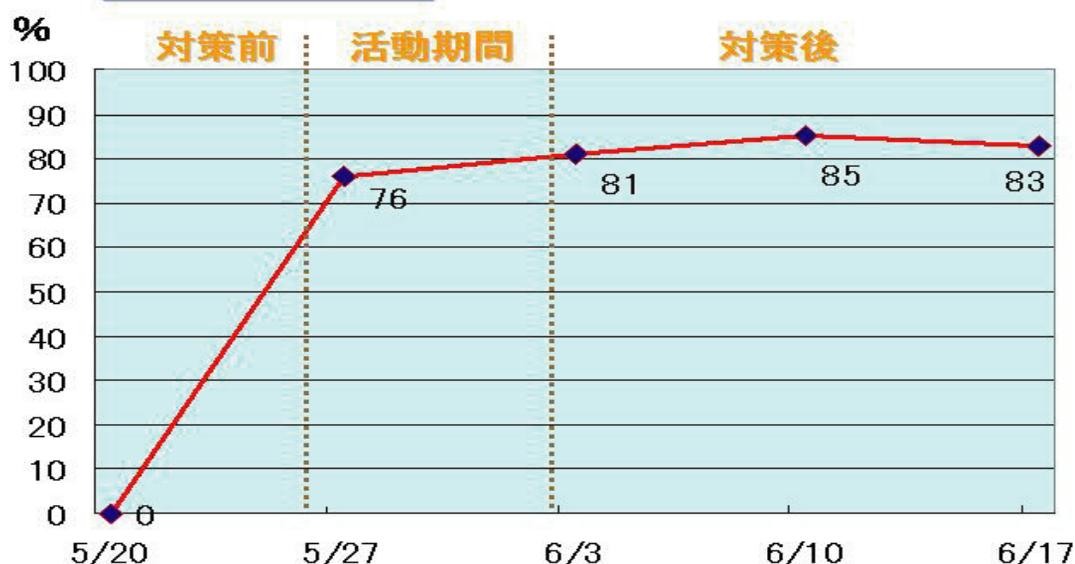
④病室でのリハビリの必要性を感じますか？



《菌止め》

何を	誰が	いつ	どうする
新患がでる度に	担当者が	2回目までに	説明書を作成し手渡す
作成した説明書を	担当者が	渡すときに	ファイルに入れて渡す
重りの数のチェックを	責任者が	1回/W	実施する

《定着の確認》 パンフレットを渡した割合



《反省》

◎良かった点◎

患者様に好評で、病棟にてリハビリされている方がふえてスタッフ一同満足しています。

◆苦勞した点◆

ソフトの作成に時間がかかり、問題点を改善しバージョンアップさせるための時間がとれなかった。

《今後の課題》

- 視力障害のある患者様への対応
- 理解力の低い患者様への対応
- 脳血管障害、小児麻痺等の自主訓練困難な患者様への対応
- クリニカルパスへの対応